

研究課題名(和文)

シベリア先住民運動における先住民団体と文化表象の役割に関する人類学的研究

■ 研究の実施状況とその成果

1. 派遣支援期間中の研究実施状況及びその成果

1-1. 本派遣による活動の概要

2018年2月22日から2019年1月26日にわたる約1年間、本派遣事業の助成を受け、ロシア連邦ノボシビルスク国立大学に赴き、同大学博物館のBaulo Arkady博士の指導のもと、研究活動を行った。

本研究の目的は、ロシア連邦の先住民の権利運動において、先住民（特にロシア連邦法で定められる「先住少数民族（коренные малочисленные народы）」）らがどのような意思決定メカニズムをもっているのかを明らかにすることである。本派遣では、ノボシビルスク国立大学のほか、モスクワ、サンクト・ペテルブルク、ハンティ・マンシスク、ノボクズネツクの短期・中期調査を実施し、現地で研究者との議論、先住民コミュニティへの聞き取り調査を行った。

1-2. 研究の社会的背景

近年、地球温暖化に伴う北極海航路の出現などにより、北極域で新たな経済活動が期待されている。ロシア連邦では天然資源、軍事利用、観光業といった分野が重視されており、先住民族をはじめとした現地住民が、その担い手として開発に組み込まれている。

先住民族について、ロシア連邦は47の民族を公式な先住民族（先住少数民族）として登録している¹（図1）。先住少数民族



図1 ロシア連邦における主な先住少数民族とその居住地

出典：<http://www.raipon.info/peoples/>（最終閲覧日:2019.02.10）

¹ 「ロシア連邦先住少数民族統一リスト」〔Единый перечень коренных малочисленных народов Российской Федерации. Постановление Правительство РФ от 24 марта 2000 года N 255 (с изменениями на 25 августа 2015 года). 2015.〕による。

として登録されるということは、自分たちの元来の土地に対する権利（伝統的な生活を続けるための資源利用、言語、文化に対する権利など）を有することを指す。それらの権利を求める彼らの運動は、国際法上の権利（先住権）と結びつきながら、国連の常設フォーラムや専門家機構の設置に見られるように国境を越えて広く展開している。特に、長らく伝統的な生業を通して身の回りの環境と対話を続け、独自の文化的価値観を築いてきた彼らの主張は、経済的な優先度とは異なった場所に位置しながら、地球温暖化をはじめとする環境問題に対し強い発言力と発信力を持っている。ロシア連邦の先住少数民族は、環境変化に伴う経済・政治的变化を考えるうえで欠かせない存在だと言える。

一方、彼らの権利運動は、行政による緩和と強化の間にある。ロシア連邦では、環境破壊を不安視する先住少数民族が企業による介入を防いだ事例がある一方、生物資源や鉄鋼資源の国家管理を強化する行政の目的のもと、企業に優遇政策が認められるなど、先住少数民族との衝突が起こる事態が生じている。このように、先住少数民族と連邦政府は強い繋がりをもっており、彼らの権利運動は、単に国際的な権利運動というだけでなく、政府との関係において常に緊張感をもって続けられる日常的な闘争だといえる。

こうした、資源利用や民族文化を対象に「だれが、何を所有するのか」を問う闘争において、その合意に向けた意思決定システムを先住少数民族の立場から論じることが、企業と住民、行政と住民の相互理解を含めた政治・経済活動を国際的・国内的な視野で把握できるという点で、環境変化に伴い経済・政治的变化が予想される北極域において持続可能な開発の提言に必要な視点だといえる。

1-3. 方法

本派遣において、報告者は以下の方法を中心に研究を実施した。

・ 文献調査 受入研究員の助力のもと、英語・ロシア語の論文をもとに先行研究を整理し、本研究の意義を学問的な意味で明確にするとともに、これらの文献をもとにフィールド調査地の選定を行った。

・ 聞き取り調査 文献調査と受入教員・ロシア科学アカデミーの研究者の協力のもと、モスクワ、サンクト・ペテルブルク、ハンティ・マンシスク、ノボクズネツクの短期・中期調査を実施し、本研究の対象である先住少数民族の活動家や先住民団体のメンバー、民族博物館施設の関係者に対し、現地での聞き取り調査を行った。

1-4. 実施状況及び結果

モスクワ「СОКРОВИЩА СЕВЕРА（シベリアの宝）」の参加によるコネクションの構築と資料収集

2018年4月29日ー5月3日にかけて、モスクワで行われた国際展示市「СОКРОВИЩА СЕВЕРА（シベリアの宝）」に参加した。「СОКРОВИЩА СЕВЕРА」は、毎年4月下旬から5月上旬にかけてモスクワのソコルニキ公園で開かれる大規模な展示市で、今回は、2006年の「Северная цивилизация. Регион Экспо」から数えて第13回目の開催にあたる。本展示市には、ロシア連邦全土から40を超える先住民／先住少数民族が集まるほか、先住少数民族の主張を国内的・国際的に代表・交渉する役割を担う団体である RAIPON が参加している。本研究を進めるにあたり欠かせない人々と交流し、コネクションを築く貴重

な機会となった。また、RAIPON 刊行雑誌をはじめ、様々な資料を収集することができた。

意思決定メカニズムの図式化

上記の「СОКРОВИЩА СЕВЕРА」で築いたコネクションをもとに、サハ共和国（ユカギール）とノボクズネツク（ショア）の先住民団体の活動家に対し、彼らの権利運動と意思決定メカニズムについて聞き書き調査をした。内容は、「誰が、どのような基準をもって自分たちの問題を見出し、その改善を誰に求めているのか（ex. 行政/RAIPON/国連など）」といったものである。その際、意思決定のメカニズムを分かりやすく議論しやすいものとして示すため、活動家とともにメカニズムの図式化を行った。結果、サハ共和国とノボクズネツクの先住少数民族の権利運動の地域的な違い、意思決定における複数のチャネルの存在、その使い方を図として示すことができた。図の作成は現在も進行中で、今後、発表に向けて作業を進める予定である。

文化的なチャネルの存在

前述の意思決定メカニズムのチャネルについて、文化的な団体がチャネルの1つとして重要な役割を果たしていることが分かった。文化的な団体は、ダンス、工芸品、文学といったローカルなものを中心に、行政や民族単位に分かれ様々なものがある。

従来の研究では、昨今のロシア連邦による「文化中心」の先住民性の創出について、文化的な由来に基づいた周縁性に彼らを位置づけることにより、先住民の政治に対する抵抗力と発言力を弱め、経済的にロシア連邦政府に依拠させる状況が生じたという指摘がされた²。先住民が政治的・経済的に劣位な立場にあるという点は賛同できる一方、本調査で示された文化的なチャネルのはたらきをみると、その活動を入口にしながら、多くの人々（特に青年層）が先住民としての自身の権利を自覚していく姿が確認できた。文化に関する団体の存在が、先住民の権利活動を支える基盤の一つになっていると考えられる。

1-5. 今後の予定

今回の調査で得られた結果は、学会での発表を予定している。また、今後も先住民コミュニティへの聞き取り調査を続けるほか、受入研究員や今回の調査でコネクションを築いたロシア科学アカデミーの研究者の方々と共同でプロジェクトを進める予定である。

■ 派遣支援期間中の研究発表・受賞・アウトリーチ活動

〔派遣中に学会等での研究発表・受賞・アウトリーチ活動があった場合、概要を記載してください。本若手派遣事業から旅費または参加費を支給したもの（科研費等、他の事業予算から経費を支出していないもの）が対象です〕・特になし

² Nikolaeva Sardana. “Post-Soviet Melancholia And Impossibility of Indigenous Politics in the Politics in the Russian North.” *АРКТИКА. XXI. век. Гуманитарные наук*. 2(12) (2017) :12-22。